

# 『主体的・対話的で深い学び』を実現するための実践研究事業」授業研究会レポート No.9-①

## 四万十市立中村中学校 授業研究会

平成30年11月2日(金) 英語科 第1学年

「Program8 Origami」 兼松 尚子 教諭



授業改善を確かな形にするために、新たな学び場がスタートしました。本授業研究会は、これからの「高知の授業づくり改革」に向けて、こういった視点が大切なのかを参加者と共有し、明日からの授業づくりの方向性を確認するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業の質を高めることを目的としています。

### 本時の目標

それぞれのALTの先生に合った情報を整理し、簡単な語句や文を用いて伝えることができる。

### 授業の視点

\*相手のニーズを理解して、既習の知識・技能でどれだけ伝えられるか。友だちや教師からのフィードバックを受けて表現の質の向上が図られたか。

### 最終板書

**問題**

Let's attract ALTs to Shimanto!

**めあて**

ALTを引き付けるような紹介の仕方を工夫しよう。

1. Greeting
2. Chat
3. Video
4. Introduction
  - 1st Try (ペア)
  - 2nd Try (ペア)
  - 3rd Try (グループ)
5. まとめ
6. 振り返り

**ここがポイント!**

From Scotland (UK)  
♥ swim, run, books  
? delicious food in Shimanto

Joe

From America  
♥ hike, fish, swim  
? enjoy nature

Robert

I recommend Tamematsu Park.  
It takes 5 minutes by car from here.  
You can watch beautiful nature.  
add+ It has many beautiful flowers.  
add+ It has cherry blossoms in spring.  
add+ You can have a picnic there.

regional food  
地元のお店の beautiful view  
It has ~. ~がある

**まとめ**

Friday November 2nd  
sunny

- ・そこ何ができるか、
- ・I like ~ など
- ・場所のいいところ
- ・行ってみて!
- ・時間

**振り返り**

1st~3rd Tryにおいて、「形成—整理—再構築」というユニットを3回繰り返していることの意味はどういうことなのかを考えることがポイントです。形成—整理—再構築というサイクルを回すことによって、見方・考え方が新たなものになっていきます。このサイクルを1単位時間の中で、短いスパンで繰り返し、身に付けたことをすぐに使って+αしていく。このように、ユニットで学びを描き、生徒にできる自分を実感させ、使ってみたくなる場を仕組むこと、生徒の意欲を掻き立てることが大事です。



四万十市立中村中学校 授業研究会

平成30年11月2日(金) 数学科 第3学年「関数  $y = ax^2$ 」 山脇 晃生 教諭



本時の目標

いろいろなデータの中から課題解決に必要な二つの数量を見つけ出し、その二つの数量について、事象を理想化・単純化することで関数  $y = ax^2$  としてみなし、変化や対応の様子を予測することができる。

授業の視点

\*事象の中にある2つの数量の関係に着目し、理想化・単純化して関数と捉え、課題解決できたか。

最終板書

車はブレーキしてもすぐに止まらない  
バスが長そう

**問題**  
ブレーキを踏んでから車が止まるまでの距離は何に関係しているの?

**予想**  
速さ、重さ、摩擦、タイヤの種類

速さ...速くなれば長くなりそう  
重さ...重くなれば長くなりそう  
タイヤの種類...摩擦が大きいのは短くなりそう

**ここがポイント!**

**重さと距離の関係性** X  
<理由>  
最大のとき 45.2m  
最小のとき 40.2m  
830kgのとき 1740kg  
のときが 750kgと900kg  
をいづれも距離がバラ  
ついている。

**速さと距離の関係性** O  
<理由>  
速くなれば距離  
も長くなっている。

**タイヤと距離の関係性** X  
<理由>  
タイヤの種類が変わっても  
あまり変わっていない。

「距離」は「速さ」の関数

まとめ 速さと距離はどんな関数になっているか調べよう。

放物線  $y = ax^2$

x	5	10	15	20	25	130
y	0.14	0.55	1.24	2.21	3.49	92.95

$\frac{y}{x^2}$  0.0055 0.0055 0.0055 0.0055 0.0055 0.0055

式  $y = 0.0055x^2$   $x = 130$   
 $y = 92.95$

まとめ データを理想化・単純化して考えると関係性のある2つの数量がある。どんな関数かわかると先ず予測できる。

中学校第3学年の関数指導のまとめとして、何を大切に指導をするのかを考えることが必要です。1つ目は、目の前の対象は関数といっているのかということ丁寧を描いていくことです。「決まれば決まる」という判断基準を支えるものは表、グラフ、式であり、このいずれでも判断できた上で「関数であると決まる」ということをしっかりと押さえることが重要です。2つ目は、関数として見たときに、グラフや式から傾向をつかんだり、未来を予測したりすることができるということを押さえることです。そのためには、本時では、これまでに見たこともない関係が今まで学んできたノウハウで表現できるかどうかを考えることが学びであり、それを子どもたちから引き出すことがポイントとなります。

協議の視点

\*学びは自分事となっていたか。

授業リフレクション

どのような学びを描くのか

授業リフレクションでは、「単元計画や本時の位置付けがよかった。」「教師主体が多く、生徒が自分事として考えることができていなかったのではないか。」「子どもたちから言いたいことを引き出していくことが必要。」「意見文を書くために、9年間を見通した計画が必要なのは。」などの意見が出されました。

英語科においては、目的・場面・状況を明確にした他者とのやり取りを、「形成—整理—再構築」というユニットで繰り返し行うことができるような学びを描き、コミュニケーション能力を育成していくことが重要です。

国語科においては、能力育成のサイクルをクラスで回せるかどうかが大切です。そのサイクルを回すためには、学習活動（本時は「推敲」）における視点が全体で共有され、これから行う活動へのスタートラインがそろっていることが大前提となります。

数学科においては、関数を見だし、関数をつくり、関数を活かすという3つの視点から、これまでの関数の見方・考え方を働かせ、本時のデータをどのように見つめていくのが大事です。



ゴールは三つの資質・能力の育成

深い学びにするのがゴールではありません。ゴールは三つの資質・能力の育成です。どういう学びが深い学びかではなく、三つの資質・能力を育成するための学びがどうあればよいのかということです。それを軸に研究を進めていくことが大切です。



3教科に共通するポイントとは...

ポイント①思考対象の明確化

今までにできることをBaseにして何ができるようになりたいかという目指す方向性がはっきりしていたかどうか。

ポイント②多様性の確認と表出

協働から得た知見を活用できるかどうか。

ポイント③見方・考え方の成長の振り返り

授業によってできるようになったことは何かを確認する。

これらのプロセスが、新教育課程での各教科に期待されている学びづくりの視点です。この視点をはっきりさせながら授業づくりを丁寧にしていくことが求められています。

提案授業から見えてきたこと

- 目指すゴールを教師が共有し、生徒が主体的に学び、気づき、この時間でこれができるようになったと実感できる授業をデザインすることが求められていると実感しました。
- 他教科でも全ての教科で学習したことが、生活や日常の中のものに関連させて思考させること＝生きることに繋がると感じました。
- 教師が一方的に説明するのではなく、生徒の発言や気づきで授業が展開していけるように授業改善をしていきたいです。生徒の発言が出やすい発問をして、その発言を板書として残していきたいです。



兼松 尚子 教諭



松下 佳那 教諭



山脇 晃生 教諭

参加者の声

- 授業づくりは、学習指導要領をしっかりと読み込むことと、目の前の生徒がどのように考えているかの両輪でつくっていくことが大事だと思いました。
- 単元で捉え、授業を構成することの大切さが分かりました。
- 生徒主体の授業づくり、流し方をもう一度教科内で確認する必要があると思いました。
- 資質・能力を高めることが深い学びとなる。そのために見方・考え方が大事だということが分かりました。
- 教科として大切にしたいことや子どもにどんな力をつけさせたいか、単元や1時間の授業のゴールがどこなのかを明確にして授業をしていきたいと思いました。
- 自分が担当している教科以外の授業を拝見し、とても勉強になりました。

check!

次回 平成31年2月15日(金) 授業づくり春季セミナー